

J AIPA

Express

Vol.45

June 2017

CONTENTS

ご挨拶

コラム

・ Japan IGFに参加して

レポート

・ 第47回 ISP & クラウド事業者の集い in 熊本開催報告書

事務局通信

会員紹介

行事一覧

役員一覧

会員一覧

全国プロバイダー一覧

日本インターネットプロバイダー協会は1999年12月に設立され、約18年の月日が流れています。メンバーは155社あり、毎月の理事参加の運営委員会、年に2回のメンバー代表の集まりを、全国各地の町で開催し、情報の共有、新しいことの勉強など会員間の意思疎通、切磋琢磨に努めています。

運営委員会の後、また勉強会の後の懇親会は楽しいことですが、同時に理解を深めあう有効な手段ともなっています。本年は4月に熊本市で、7月には宮古島で集まります。

インターネットは自立、分散、協調を基本にして成立するものです。

これは私達会員のメンバーの関係をみるようです。

私見ですが上位下達が基本だった日本の社会に風穴を開けた社会インフラと言えます。

もう一つの見方は、世界中のどこからでも、誰からでも、いつでもデジタル情報や誰にでもアクセスできる通信手段を得たということも出来ると思います。

日本のインターネットの開発はアメリカに比べるとかなり遅れていました。

私がアメリカでARPANET（インターネットの前身）の端末を見たのは1971年10月ハワイ大学のアブラムソン教授の部屋でした。教授は米本土中西部の大学と端末を介して交信していました。

ARPANETは1971年2月にアメリカの大学教授の間で使われ出したばかりなので貴重な体験でした。

日本では村井純教授が中心になって、1984年10月に発足したJUNET（UNIVERSITY NETWORK）に始まります。すなわちアメリカと比べると13年の遅れでした。

その後の日本のインターネットの開発と世の中への浸透は早く、今では世界で一番速い、一番低廉なインターネット網を持つようになりました。これは日本の社会が成し遂げた偉大な成果と思います。今では8千万の人がインターネットを使っています。

インターネットのもたらした最大の貢献は個人に力を与えたことだと思います。

私はそれを個のエンパワーメントと呼んでいます。

JAIPAの会員の皆様はまさにその見本です。多くのプロバイダーの経営者の皆様は個のエンパワーメントの実現者です。私の所属する会社のオーナー経営者もインターネットにより力を得てビジネスの開発に成功した一人です。

こうして私達会員の皆様も含めて先人達の努力でインターネットは日本の社会になくはならない存在になったのです。社会インフラである以上、ICTの安心、安全の確保、サイバーセキュリティの強化は一層もとめられます。

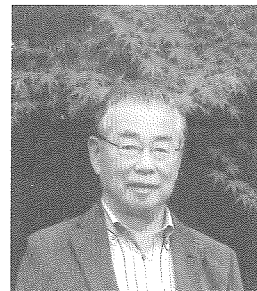
今年は改正個人情報保護法の全面施行が行われ、私達事業者はそれへの対応をしていかなければなりません。また地域のICT基盤整備、IoT、ビッグデータ、クラウドを活用した地域産業の生産性向上についても、全国で地域に根付いた活動を行っている、事業者の多い、当協会の強みを生かして、取り組んで行きたいと考えています。

外国からの観光客の増加は続き昨年は2000万人を超え、2020年東京オリンピック、パラリンピックの頃には、4000万人に達するだろうと言われてます。

これに対応しての、公衆無線LANの整備や、インターネットガバナンスの問題についても、積極的に関わっていきます。

いろいろ問題はありますが、総務省を始めとする関係機関、各団体の皆様に今後ともご指導、ご協力もお願いし頑張っていく所存です。

一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会
会長 渡辺 武経
(株式会社 デイー・エヌ・エー)



Japan IGFに参加して

3月7日、東京で開催された、「IGF-Japan 2017」について、企画メンバーとして報告します。

IGFとその背景、マルチステークホルダー（MSH）原則

IGF (Internet Governance Forum) は、インターネットの公共政策をめぐるグローバルな対話の場として、2006年にギリシャのアテネで開始された。事務局は国連本部に置かれ、具体的な内容はMultistakeholder Advisory Group = MAGと呼ばれる各国・各分野から選任された約50名のメンバーの合議により決められる。

IGF設置の背景には、2003年と2005年に開催された国連主催の「世界情報社会サミット（WSIS）」で、インターネットの国際管理をめぐる激しい対立があった。ロシア、サウジアラビア、南アフリカ、ブラジル、中国など、途上国側の多くの国が、ドメイン名、IPアドレスなどのインターネット資源を管理する国際組織ICANNは、米国政府主導で中立ではないと批判し、国連中心の体制への変更を強く求めた。しかし、現状維持を主張する欧米諸国、産業界と、政府主導を求める国々との合意は成立せず、「妥協策」として登場したのがIGFで、「インターネットの国際公共政策に関わる課題についての対話の場」とされた。

今日までの詳しい経緯は紙幅もないので割愛するが、IGFの10数年での最大の成果の一つが、「マルチステークホルダー（Multistakeholder）= MSH」原則である。即ち、当初WSISの会合では政府、市民社会（Civil Society）、産業界（Business）の三分野からの参加を基本とする、というのが共通理解であった。WSISは国連の公式会議で、決定権は政府代表がもち、市民社会、産業界、そして国連専門機関などは、傍聴・発言可能なオブザーバーという位置付けだった。

これに対してIGFでは、ことインターネットのガバナンスに関しては、各分野を全て対等に扱うという原則が一定の理解を得て、MSH原則の基本合意として定着していった。その根拠としては、インターネットの運用の基本的な仕組みが「自律・分散・協調」にあり、政府などによる特定の分野・組織が集権的に管理することになじまない、という現実があったと考えられる。

筆者は、ICANN、WSIS、IGFに、いずれも「市民社会」の立場で参加し、エンドユーザーの声を届けることを心がけ、MAGメンバーも勤めた。しかし、残念ながら日本でのインターネットガバナンスについての「市民社会」の参加・発言

はまだまだ弱く、政府・産業界・テクニカルコミュニティからの理解・認知も十分とは言えない。

IGFジャパン

IGFジャパンは、日本インターネットプロバイダー協会が呼びかけ、2010年沖縄での「準備会合」を嚆矢に、2011年に第一回「全体会合」が開かれ、2012年にはアジア太平洋のIGF、APrIGFが、JAIPAを始めとするIGFジャパンの主要メンバーによって東京で開かれるなど、これまでに都合8回の会合が開催されてきた。

今回のIGFジャパンも、総務省の後援を得て3月7日に開かれた。冒頭、議長である渡辺武経JAIPA会長が、一年を振り返り、IANA機能の移管という重要な出来事があったこと、日本のIGFでも国際的に合意されている、MSH、オープン、トランスペアレント、インクルーシブという原理を大事にしたいと挨拶された。

総務省の富永昌彦総合通信基盤局長は、オープンなインターネット環境、情報の自由な流通の重要性、MSHの重要性がG7サミットを始め、OECD閣僚会議、G20（中国）会議で合意され日本政府もコミットしてきたと述べた。富永局長はさらに、ICANNが米国政府からより明確に独立し、まさにMSHの枠組みで運営されるようになったことと、IGFも国連でさらに10年の延長が決議されたことを歓迎すると述べた。

村井純慶應義塾大学環境情報学部長はビデオで挨拶し、インターネットの進化、そのガバナンス＝意思決定の進化が、MSHとして発現してきたと指摘し、ナショナルセキュリティ



ティ、ヒューマンライツなどの課題では政府の役割が強くなるなど、MSHのバランスも変化すると述べた。さらに、コンピューを繋ぐネットワークが、有線から無線に、デバイスをつなげるものになった現在、インターネットガバナンスかデバイスガバナンスか、データガバナンスか、本当のガバナンスとはネットワークの運用者だけのものか、使っている人も含むものか、ステークホルダーはますます多様となり、スコープも広がり、複雑になって、どう整理できるかの議論が大事になってきたと述べ、日本からの発信の重要性、それをどう世界の議論に反映、貢献できるか、未来のネット社会の構築に貢献できるように一緒に頑張っていきたいと結んだ。

メキシコIGF報告 緊張は少なかった

セッションは、大東文化大の上村圭介教授が司会を務め、メキシコのグアダハラで開かれたIGF 2016の報告に始まり、IGF MAGメンバーの奥谷泉氏が国連のSDGに合わせたIGFの意義を述べ、「開発・発展」「セキュリティ」「インフラ基盤」「経済・法律」「人権」「社会・文化」などのテーマによる多様な議論が行われたと述べた。

IGF参加メンバーとして、総務省総合通信基盤局データ通信課の高村信氏、日本レジストリサービス（株）の高松百合氏、ヤフー（株）の望月健太氏、一般社団法人インターネットユーザー協会の香月啓佑氏、JAIPAの立石聡明氏、市民コンピュータコミュニケーション研究会の浜田忠久氏が、それぞれ短い報告を行った。

続くパネル討論で、筆者会津は「今年のIGFはいままででもっとも静か、平和、退屈だった」と述べ、奥谷氏もバリのIGFがスノーデン事件直後でセキュリティの議論が熱かったのと比べると、緊張はなかったと述べた。

IANA機能移管の概要とその意味

次に、当初のMAGメンバーであったXinovaの加藤幹之氏の司会により、「IANA機能移管の概要とその意味」についてのセッションが開かれた。加藤氏は、IANA機能の移管は、1998年、ICANN設立の前からの課題で、16年遅れて、やっと去年まとまった。なぜ16年もかかったのか 何が問題だったのか、何が解決されたのか、今後問題はなくなるのか、と問いかけた。日本ネットワークインフォメーションセンター（JPNIC）の前村昌紀氏がIANA機能移管の意義を説明し、JPRSの堀田博文氏らがコメントを行ない、参加者による討論となった。

ネットワーク中立性の課題

後半は九州大学の実積寿也教授の司会で、「ネットワーク中立性の課題」を議論した。

JAIPA立石氏が、「日本のトラフィックの現状とISP」として、増え続けるトラフィック、とくにWindows10のアップデートが1ファイル9GBと恐ろしい量になっていること、NTT東西に終端装置の増設基準の変更を要請していることなどをあげ、東京から遠いISPは回線コスト負担が高く、オリンピックまでもつかと懸念を述べた。立石氏は続いて、IGF2016での表現の自由と中立性の関係の議論として、チリ、メキシコ、ノルウェー、インドなどの事例を紹介した。

市民コンピュータコミュニケーション研究会の浜田忠久氏も表現の自由の重要性を指摘し、実積氏はいわゆる「ゼロレーティングに関わる賛否」を説明し、産業政策上の論点から、排除すべきか容認すべきかと問いかけた。

LINE(株) 公共政策室の兼保圭介氏は、昨年9月開始のMVNO、LINEモバイルについて、「パケ死で低速すぎてつながらない」「月末になると使えない」と言ったユーザー側からの不満に答えるために開始したと説明した。

総務省データ通信課の高村氏は、「中立性」と訳したのが不幸の始まりと指摘、商業目的でのサービスと理解し、思想信条での制限は論外だが、LINEモバイルはいまのところ「不当」とは見えていないと述べた。

虎ノ門南法律事務所の上沼紫野弁護士は、ユーザーとして通信環境は公共インフラとしての安定供給と、競争＝選択の自由の保証が条件だが、それが本当に実現されているのかと問いかけた。



Youthプログラムの意義

続いて「Youthプログラム」として、駒澤大学の西岡洋子教授が司会を務め、まず筆者がAPrIGFにおけるYouth IGFについて以下の紹介を行った。

アジア太平洋地域の「APrIGF」は、香港での第1回から10代・20代の若者によるプログラム「Youth IGF」を並行開催し、若い世代にインターネットガバナンスの重要性を伝える取り組みを続けてきた。これは、「ネット・ミッション・アンバサダー」というより広いプログラムの一部で、毎年選抜されたメンバーが、グローバルIGF、APRICOTなど、インターネット関連の複数の会議に参加し、積極的に学ぶという、世界でもユニークなプログラムだ。当初のアンバサダーからは、IT関連企業に入ってネット政策を担当する人間も出て、人材育成としても注目する価値が高い。

この原資は、「asia」トップレベルドメインを運営する非営利組織、「ドットアジア」が出しており、インターネット資源の販売から生じる収益を、広くアジアのコミュニティに還元するという意味でも、意義が高い。

討論では、実積氏が学生の育成は大変で、しっかりしたプログラム、スポンサーが必要と述べ、JPNIC前村氏はフェローシップを一年間やってみて、技術分野にとどまったがやりが

いはあり、次世代の育成は必要かつ難しいとの実感を述べた。

ヤファー望月氏は、IGFワークショップに香港の高校生と大学生、アフリカの若者を迎えた経験から、彼らはキラキラして熱心で、若い人に機会を提供するのは人材育成として重要だが、リソースの問題もあると述べた。

マルチステークホルダーとJapan IGF

最後に「マルチステークホルダーとJapan IGFについて」のセッションが、Xinova加藤氏の司会により開かれた。

JPNIC奥谷氏が、今後日本でも一つになって展開することを考えたいと述べ、筆者は、一つになることは賛成だが、そのガバナンスの整理、透明性、インクルーシブ、オープンネスが大事だと述べた。JAIPA立石氏は、日本ではお上に決めてもらおう傾向が強いが、自発的な参加をしてほしいと訴えた。

カルフォルニア大学パークレー校の寺田真一郎客員研究員は、インターネットの専門家も、思想、ビジネス、経済、生活に結びつく広い視点で議論することの重要性を指摘し、最後に加藤氏が、積極参加を促し、社会のすべてがインターネットにかかわっているとさえ言える状況となり、あらゆる専門家と一緒に議論できればよいと思うと締めた。

会津 泉（多摩大学情報社会学研究所）

IGF-Japan 2017 (インターネット ガバナンス フォーラム ジャパン)

日 時：2017年3月7日（火）14：00～18：30
場 所：都市センターホテル 606会議室
主 催：一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会
後 援：総務省

総合司会：

- ・上村圭介氏（大東文化大学）
- ・浜田忠久氏（市民コンピュータコミュニケーション研究会（JCAFE））

14:00～ ご挨拶

- ・開会挨拶：IGF-Japan 議長 渡辺武経氏
- ・来賓挨拶：総務省総合通信基盤局長 富永昌彦氏
- ・来賓挨拶：慶應義塾大学環境情報学部 学部長 村井 純氏（ビデオレター）



14:20～

IGF-2016 in Guadalajara 報告

[司会：上村圭介氏（大東文化大学）]

- ・全体報告：奥谷 泉氏（IGF MAG member）
一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター（JPNIC）
- ・個別発表：高村 信氏（総務省総合通信基盤局 電気通信事業部 データ通信課）
高松百合氏（株式会社日本レジストリサービス（JPRS））
望月健太氏（ヤフー株式会社）
香月啓佑氏（一般社団法人インターネットユーザー協会（MIAU））
立石聡明氏（一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会（JAIPA））
浜田忠久氏（市民コンピュータコミュニケーション研究会（JCAFE））
- ・パネル討論・質疑

15:20～

IANA Function移管の概要とその意味

[司会：加藤幹之（Xinova）]

- ・説明 前村昌紀氏（一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター（JPNIC））
- ・コメント 移管意義と今後の展望
・堀田博文氏（株式会社日本レジストリサービス（JPRS））
・奥谷 泉氏（一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター（JPNIC））

15:50～ 休憩

16:00～

ネットワーク中立性の課題

[司会：実積寿也氏（九州大学教授）]

- ・「表現の自由と中立性、他国の動向」
浜田忠久氏（市民コンピュータコミュニケーション研究会（JCAFE））
- ・「日本のトラフィックの現状とISP」
立石聡明氏（一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会（JAIPA））
- ・パネルディスカッション

コーディネータ：実積寿也氏（九州大学教授）

パネラー：兼保圭介氏（LINE株式会社）

- 高村 信氏（総務省総合通信基盤局 電気通信事業部 データ通信課）
- 上沼紫野氏（虎ノ門南法律事務所）
- 浜田忠久氏（市民コンピュータコミュニケーション研究会（JCAFE））
- 立石聡明氏（一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会（JAIPA））

17:40～

Youthプログラムについて

[司会：西岡洋子氏（駒澤大学教授）]

APrIGF におけるYouth IGFの取り組み

- ・会津 泉氏（多摩大学情報社会学研究所）
- ・今後の展望など
コメント：実積寿也氏
- ・APと絡めて スポンサー

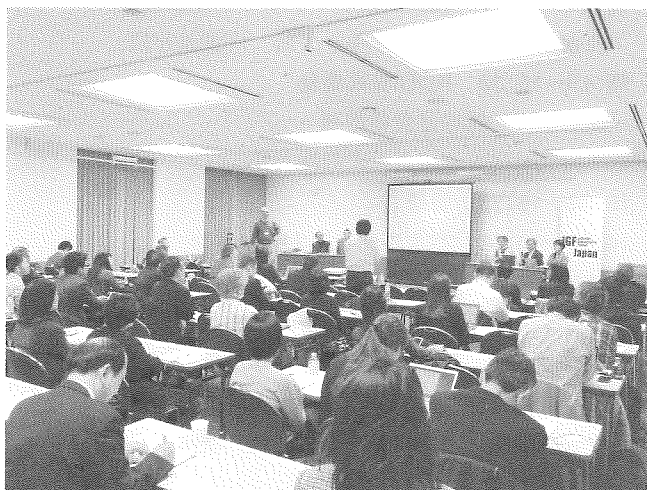
18:10～

マルチステークホルダーとJapan IGFについて

[司会：加藤幹之氏（Xinova）]

- ・NRIとは…奥谷泉氏（一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター（JPNIC））
- ・今後の展開 全員討論
（日本でマルチステークホルダーをどう発展させるか）

18:30～懇親会





第47回ISP & クラウド事業者の集いin熊本 開催報告書

日にち：2017年4月20日（木）～21日（金）

場 所：熊本商工会議所 大会議室

〒860-8547 熊本市中央区横紺屋町10

TEL 096-354-6688

<http://www.kmt-cci.or.jp/access.php>

後 援：九州総合通信局

熊本市

協 力：IMS株式会社

参加者：87名

プログラム：

■4月20日（木）

13:00～ 受付開始

13:30～13:35 ご挨拶 地域ISP部会 部会長 晋山孝善氏

～熊本震災・福岡陥没事故関連セッション～

13:35～14:05 総務省 九州総合通信局

情報通信部 電気通信事業課 課長 氏家宏之氏

14:05～14:35 株式会社IMS 代表取締役社長 高木大輔氏

14:35～15:15 「IP化の進展と円滑な接続の実現に向けて」

総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部

料金サービス課 課長補佐 柳迫泰宏氏

15:15～15:30 休憩

15:30～15:45 ソフトバンク株式会社

西日本技術本部 副本部長

兼 九州技術統括部長 野中孝浩氏

15:45～16:00 株式会社NTTネオメイト

ネットワークサービスオペレーションセンタ

担当課長 小山晃広氏

16:00～16:15 九州通信ネットワーク株式会社

技術本部技術部計画グループ長 渡邊義和氏

16:15～16:30 KDDI株式会社

運用本部 運用品質管理部

特別通信対策室長 大迫唯司氏

16:30～16:35 休憩

16:35～18:00 パネルディスカッション

モデレータ：

ソフトバンク株式会社 安力川幸司氏

ソフトバンク株式会社 野中孝浩氏

株式会社NTTネオメイト 小山晃広氏

九州通信ネットワーク株式会社 渡邊義和氏

KDDI株式会社 大迫唯司氏

19:00～ 懇親会

■4月21日（金）

10:00～10:20 「JAIPA新規入会者紹介」

—NTTコムウェア株式会社

通信ビジネス事業本部営業部 栗田勝博氏

—NTTメディアサプライ株式会社

10:20～10:30 「JAIPA CloudConference 2017について」

～7月19日 品川コクヨホールで行うクラウド事業関係

者向けイベント～

クラウドカンファレンス実行委員

GMOクラウド株式会社 請園 薫氏

さくらインターネット株式会社 杉本悠加氏

10:30～11:20 「プロバイダの違法有害情報及びプロ責法
対応の課題」

JAIPA行政法律部会長 木村 孝氏

11:20～11:45 「電気通信紛争処理委員会について」

総務省紛争処理委員会 上席調査専門官 徳部潔氏

11:45～12:15 「電話網のIP化の進展と技術基準」

ソフトバンク株式会社 安力川幸司氏

12:15～13:00 お昼休憩

13:00～13:15 「公衆無線LAN版安全・安心マークについて」

JAIPA副会長 立石聡明氏

13:15～14:15 「ID管理の重要性と企業リスク」

～IDaaSと繋がることにより通信事業者やユーザーにと
んなメリットがあるか～

GMOグローバルサイン株式会社

SKUID事業部 赤坂佳威氏

14:15～15:00 「Apache Struts2 他、脆弱性を悪用した
攻撃について」

～サーバへの未修正の脆弱性を悪用する攻撃、そろそろ
防ぎませんか？～

一般社団法人 JPCERT コーディネーションセンター
(JPCERT/CC)





早期警戒グループ マネージャ 洞田慎一氏

15:00～15:15 休憩

15:15～16:00 「IPv4アドレスの移転状況と今後について」
～移転件数および価格推移とinter-RIR移転（国際間移転）について～

株式会社Geolocation Technology 松村賢三氏

（旧商号：サイバーエリアリサーチ株式会社）

16:00～16:30 「アップデートトラフィック アンケート
結果について」

株式会社大塚商会 木室友裕氏

16:30～17:30 「ネットワーク中立性とIGFJの議論状況」
JAIPA副会長 立石聡明氏

17:30～18:00 「熊本震災時におけるクラウド活用について」
株式会社システムフォレスト 代表取締役 富山孝治氏

18:00～18:30 「熊本地震発生時のトラフィック及び設備
の状況について」

九州通信ネットワーク技術本部サービスオペレーション
センター

ネットワークマネジメントグループ長 西田 圭氏

19:00～ 懇親会

プログラム委員：

石田 卓也 株式会社イプリオ

佐々木謙太 NTTスマートコネクト株式会社

宮内 正久 ソニーネットワークコミュニケーションズ株
式会社

宮島将日晃 株式会社IMS

村田 篤紀 株式会社DMM.comラボ

安力川幸司 ソフトバンク株式会社

概 要：

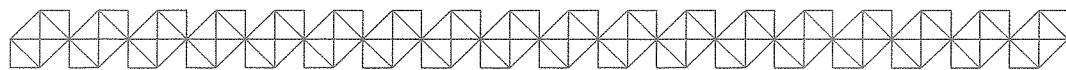
2016年4月に熊本地震が起きました。1回目の地震のときにはJAIPAで沖縄ICTフォーラムの打ち合わせをしているときでした。その時はこんなに大きな地震だとは思わず過ぎておりましたが、一夜明け、さらに2回目の地震が大きく、「大変なことになる」と。テレビを見てその惨事を拝見し、メールを送るのが精一杯のことでした。年内に熊本で集いを

することも考えましたが、何う事でご迷惑では無いかと思い、1年後の今回やっと実現することが出来ました。2011年の東日本大震災を経験している晋山部会長の熱い思いがあり、～熊本震災・福岡陥没事故関連セッション～として、震災をテーマにしたものを1日目に開催いたしました。東日本大震災の際にキャリアの現状や課題などを「集い」で取り上げ、パネルディスカッションで情報共有や意見交換をしたため、今回も熊本地震について、キャリアの方、役所の方にご協力いただき当時の話をしていただこうとプログラムを作りました。予め、熊本県庁にご挨拶に赴き、熊本地震で主に通信がどうなったのか、困ったことや問題点などをお伺いできればと申しましたら、「いや、通信は全然、大丈夫だったんですよ。問題なく。だから、ライオン逃げたみたいなの、SNSが出てきて……」と言うことでした。その後話続かず。お話しはそこまでとさせていただき、現状の情報を頂戴しました。こういった一般の個人向けでなく、事業者（特定）向けのセミナーは、熊本県としては後援出来ないとのことで後援名義使用も断念いたしました。都道府県、市町村は、様々な決まりがあり運営の難しさを痛感しました。

さて、いろいろありましたが、1日目の最初は九州総合通信局報通信部 電気通信事業課 課長 氏家宏之氏に震災の話をさせていただきました。氏家氏は、東日本大震災の際には東北総合通信局勤務だったそうで、九州総合通信局に異動になってすぐにこの熊本地震も体験されたそうです。過去二度の大地震を体験した、それぞれの土地での様子や行動、その時に思ったこと等を語っていただきました。自分の家も大変だったのに、役所での責任も有り大変なご苦勞をされたと思います。実際に体験されたからこそその話をお伺いできてとても有意義なセッションでした。次に、この集いをバックアップしていただいたIMS株式会社の高木社長からは、地震のその後をどう過ごしたか、食料、備品を調達配布する中、どうやったら、その人達が必要な物を効率よく渡せることが出来るのか。SNS等も使い試行錯誤して行った様子が良く見て取れます。ご苦勞なされたのだと思います。

次のセッションは皆様、あれ？と思ったかもしれませんが、





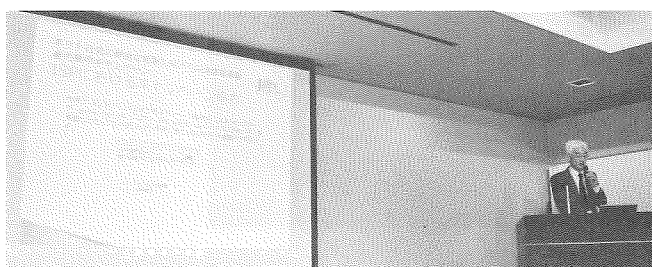
「IP化の進展と円滑な接続の実現に向けて」として総務省総合通信基盤局 電気通信事業部 料金サービス課 課長補佐 柳迫泰宏氏にお話しいただきました。今回柳迫さんがどうしても日程の都合がつかなく、この震災枠の中に入ったのですが、この話題は現在までも続いている大事な案件なので、「集い」の機会に皆様に情報を入れておきたいここに入れてさせていただきました。総務省主催で行っている「接続料の算定に関する研究会」での概要と事業者に対して、意見等を寄せてほしいと言うことでした。お忙しいところ本講演のみの参加で、このご講演でお帰りになっていました。また引き続き進捗状況などをお話しいただく機会が持てればと思っております。休憩を挟んで各通信会社（ソフトバンク株式会社、株式会社NTTネオメイト、九州通信ネットワーク株式会社、KDDI株式会社）4社に熊本地震当時の様子と対応状況をそれぞれご説明いただきました。ソフトバンクの野中さんのお話によると2016年度九州は災害が多かった、4月が熊本地震、6月は集中豪雨、9月の台風、10月は阿蘇山噴火、12月はびっくりしましたねえ、博多駅前陥没。落ち着かない1年だったのでは無いでしょうか。通信回線が切れなくて全然大丈夫だったという意見は、今回の通信キャリアの方々のがんばりがあったからではないでしょうか。今回は、ソフトバンク株式会社の安力川氏にモデレータを担当いただき、その後にパネルディスカッションも行いました。携帯基地局も益城町中心部の局所的停電の影響があったり、サービスエリア復旧には臨時で無線伝送路を構築、高速衛星でWi-Fiサービスをしたり、設備総点検を行う為の時間もだいぶかかったでしょう。さらに避難者への支援活動も行っていたそうです。東日本大震災で学んだことを活かし、エリア復旧体制、協力体制の確立を早々に行い、このライフラインとなっている通信を守ってくださっているのだと感じました。そして、同業者・ライバルが、ここぞと言うときに水面下で協力し合っているのもわかりました。それぞれの立場や話しにくい事もあったかと思えます。ご登壇いただきまして有難うございます。心より御礼申し上げます。

2日目は、前回の集いから始めた、JAIPA新規入会社の紹介です。今回はNTTコムウェア、NTTメディアサプライの2社でした。これからもよろしくお願いいたします。そし

て、7月19日に予定されているCloudConference2017の告知・協賛協力依頼を実行委員会メンバーの請園、杉本の2名で皆さんにアピールです。良く出来ました、お疲れ様でした。皆様もぜひご協力ください。これ以降は、日々の事業者が抱えている問題や課題を取り上げ、有識者にお話しを頂戴しました。JAIPA行政法律部会部会長兼会長補佐の木村氏による「プロバイダの違法有害情報及びプロ責法対応の課題」として昨年10月に発足した「ネット社会の健全な発展に向けての連絡協議会」の春の集中キャンペーンの一環として位置づけでご講演いただきました。違法有害情報対策が考え方や対応等、分かり易く整理されていました。次に毎回恒例の「電気通信紛争処理委員会」のご講演です。何か紛争処理案件がありましたら、お気軽にご相談ください。とのこと。お昼休憩を挟み、2月末日に新しく設置された「公衆無線LAN版安全・安心マーク」の説明です。十数年ISP版安全・安心マークを運営してきましたが、新たに公衆無線LANについての安全・安心マーク制度を設けました。<https://www.isp-ss.jp/info/2017/02/post-5.php>ぜひ、ご覧になってみてください。また、公衆無線LANを運営している事業者・団体向けにご案内していただければ幸いです。

次は、「ID管理の重要性と企業リスク」として、GMOグローバルサイン株式会社 赤坂さん、「Apache Struts2 他、脆弱性を悪用した攻撃について」をJPCERT/CCの洞田さんより、それぞれセキュリティに重要なご講演をいただきました。その後もIPv4アドレスの移転状況や、アップデートトラフィックアンケート結果、ネットワークの中立性とIGFJの議論状況など、多岐にわたるプログラムで、参加者が飽きることも無く聞くことが出来た集いだったと思います。最後に熊本の震災に携わった人にクラウド活用やトラフィックと設備の状況などをお話しいただき締めくくっていただきました。

今回の集いで、47回目を迎えますが常に課題、問題が付きない日常だと思えますので、JAIPAでなくては出来ないこと、やらなければならない事など、皆様の気づいたことをぜひ、事務局にご連絡ください。部会、そして集いで取り上げていきましょう。今回ご協力いただいたIMS株式会社 宮島様、そして毎回進行し会含めて引き受けてくれるプログラム委員の皆様、有難うございました。引き続きよろしくお願いいたします。(M)





「老後」っていうのを 考えてみた…。

おそらく言うか、確実にフリーランスで生活してきた、或いは零細企業で働いてきた者は、年金だけでは食べていけない、そういう時代がやってきますね。いや、もうやっているのかな。支給年齢が徐々に高齢になっている。しかしもらえる金額が増えることは無い。

昭和30年代前半生まれ。老後のことが気になるお年頃です。テレビとか雑誌の特集で見ませんでした？生涯支払った金額と、給付される金額が生まれた年代別に比較されている表。たしかあれによると昭和30年代前半生まれは、とんとんの世代だった記憶があります。それ以降の年代はマイナスになる…。

あれやこれやで、一体全体年金はどうなるのか？いくつになったら幾ら支給されるのか？それで生活が出来るのか？考えると夜も寝られない。

大企業を勤め上げて企業年金がある、資産運用をして蓄えがある、優しい子供が面倒を見てくれる。そんなことと無縁な人間は、はてさてどうなることやらと、まあそう思うわけです。

最近スーパーで、一人黙々と買い物をしているご老人をつい見つめてしまったりします。タイムサービス、見切り品、お買い得品を丹念に探して買って帰る。そうだよなあ、年金だけで都会で生活していくって、まして独居老人ってなると、そうなるのだろうか…と。

かといって、いまから一攫千金狙う才覚も無く、爪に火をともし貯蓄に励むのも遅いだろうし、どうしようかな。とりあえず身体の動く限りは働くしかないか…。コンビニ？ファーストフード？ハウスクリーニング？今のところ、人手不足の日本ですから探せば仕事はあるだろうが…。でも不安…。

これは自分だけでは無く、そういう境遇の皆様がそれなりにいらっしゃるはずだと。

年金だけでは生活していけないだろう。プラス幾ばくかの収入が欲しい。それほど贅沢したいわけでは無い。プラス10万円毎月稼げたら？どうだろうか？

そこでちょっとした実験を始めて見ました。地方の産品を販売してみることにしました。シンプルにと言うか、大雑把に考えて、1件あたり手数料1000円。100人に買ってもらえたら10万円これを基本にします。

どうして地方の特産品を売るのかって？それは色々なご縁で知り合った生産者さんが日本中に居るからでして、そんな方々の作物、獲る物、育てる物が美味しいからです。美味しいからお土産として配ると、好評だからです。

美味しいのだけれどなかなか売るのに苦労している。苦労している要因は様々なのですが、要は大手の小売りと取引するほどの量は無い。自然のものだから安定供給が出来ない。高度な加工が出来ない。このあたりがなかなか解決できないからですね。

だったら自分で仕入れて売ってみよう。このあたり、色々葛藤というか、考えがあるのですが、それは省略して、自分で仕入れて販売してみようとなったのです。

では、どうやって売るか？これも色々考えまして、知らない人には売らないことにしました。直接の知り合い、そして知り合いが紹介してくれた方にだけ販売する。不特定多数を相手にするネット通販とは一線を画す。

そうなるそうですね、どれだけ知り合いがいるのか？これがポイントになります。

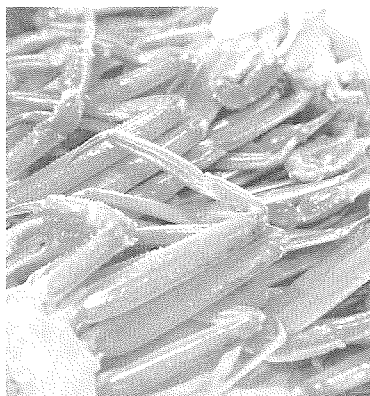
コアなお客様（＝友人知人）が30名。そこから紹介していただいで倍の60名。あとはそれらのお客様が自家消費ではなく贈答で30箇所を送る。これが販売のイメージ。これで計算上は90件の注文となります。

人生の棚卸しとまで大げさではないのですが、いままでどうやって生きてきたのか？それによってこの計画が動くか動かないか決まるのでは無いか？そんな仮説です。自分の場合は自分が一番興味のある食品を手がけてみました。

実際に予約をとって販売してと繰り返してみても分かったこと。



2016年10月 青森県三戸郡南部町の沼畑俊吉さんが栽培している
洋梨ゼネラルレクラークとデュワイエンヌデュコミス



2017年3月 福井県坂井市三国町の船持漁師船木さんの越前蟹と
水蟹



2017年5月 北海道網走郡美幌町「美幌未来農業センター」牛来
博主査が長年手がけているホワイトアスパラ



2017年6月 青森県三戸郡南部町の沼畑俊吉さんが栽培している
さくらんぼ

注文いただいて、産地から直送しますよね。で美味しいとなると追加注文が入る。しかし旬の短い物を取り扱っているので、追加したいのですがと相談が来ても、ごめんなさい、もう終了ですと、お返事することになる。

続けて販売することでリピートしてもらえらるだろうと思ったのですが、商材によって興味を持つ人が違う。まあこれは食べ物ですから、そういうものかと。

個人では無く、飲食店の個人オーナーさんからの注文がある。これは親しい飲み屋さんに話をしたら、それ店で使いたいから売ってちょうだいと。なるほど、こういう売り方もあるんだな。

そうそう、インターネットで販売するわけでは無いので、決済はどうするのか？これは注文していただいた方に会ったときに、頂戴します。知り合いですからだいたいどこで会いますので、そこで頂戴します。原始的というか、なんというか…ですが。

でも 会うことによって、食べてどうだったか？美味しかったか？価格はリーズナブルか？マーケティングが出来るわけですね。

これね、一人が売ってもせいぜい100程度の注文が限界。ですがね、同じように売る人が10人になったら1000という注文数になります。小規模生産者さんにとって1000と言う数字は、結構大きな数字ではないだろうか。

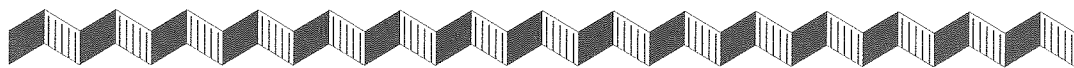
そうすると「対面決済、知人友人限定販売人」のネットワークが出来るとですね、新しい販路として、これ成立するんじゃないだろうかと思ったのです。

零細販路を束ねて小規模販路になるのではないかな？

零細販路は年金受給者の仕事にならないだろうか？

食品に限らず、いままでご縁があった生産者さんの作った物を知人友人に販売する。

そんなイメージなのですが、どうでしょうか？引き続きテストを続けていきます。



103R株式会社

103R株式会社（テンスリーアール）ではテレビ、雑誌、新聞などの従来のメディアや、Twitter、Facebook、InstagramなどのSNSを利用したメディア運営をIT技術で支援するメディア支援事業、IaaS（AWS、Azure、GCP等）のクラウド環境の導入を支援するクラウド事業およびPRマーケティング事業の大きく3つのサービスを提供しています。

メディア支援事業の一つとしてメディアと企業が匿名で情報共有ができるプラットフォーム『medcura（メディキュレ）』を提供しています。テレビ・ラジオ・雑誌・WEBなどの各メディア担当者が媒体制作のために必要としている情報と、企業・団体・個人などがメディアにむけ発信したい情報を『medcura』内で共有し、マッチングさせるプラットフォームです。また、メディア側のクローズドな情報管理や代理店などの中間に位置する部分を排除し、オープンかつ企業・団体・個人などがメディアとより最適に繋がれる仕組み作りをしています。

また、現在急激に伸びているデジタルコンテンツ（画像、音声、動画）の解析なども行っています。ディープラーニングなどの技術を利用して膨大なデータの処理を行い、これまで人の手で行っていた作業などを劇的に削減するとともに、より正確なアウトプットと多くのメトリクスによる指標づくりなどのサポート行っています。また、現在色々なデバイスに搭載されてきている音声認識技術などへの取り組みもスタートしています。

これらのサービスを提供する基盤として弊社ではサービスの内容などに合わせてAWS、Azure、GCPを利用しています。クラウド支援事業では主にそこで蓄積された技術やノウハウを外部に提供しています。アドバイザーなどのコンサルティング、インフラの設計・構築、DevOpsフローの整備、POCやプロトタイピングなど多岐にわたるサポートを行っています。

103R株式会社では、情報を伝えたい全ての方々を、より円滑に支援できる仕組み作りを追求し実現させて参ります。

103R.

エヌ・ティ・ティメディアサプライ株式会社

この度、新規会員となりましたエヌ・ティ・ティメディアサプライ株式会社と申します。

弊社は、NTT西日本のグループ会社として、集合住宅向けのシェア型光インターネットサービス「DoCANVAS」や、店舗等への来訪者が誰でも気軽にインターネットを利用できるWi-Fiサービス「DoSPOT」の提供を行っています。

「DoCANVAS」においては、インターネットサービスの提供に留まらず、セキュリティ対策やリモートサポートサービス、IP電話サービス、監視カメラ等、集合住宅ライフの付加価値向上に繋がるオプションサービス提供も併せて行っており、直近では、宅配ボックスサービスを提供開始いたしました。

今回のJAIPAへの加入を機に、急増するトラフィックへの対処等、業界課題の共有を図ることで、インターネットプロバイダー事業の持続的な発展に寄与するとともに、会員各位との連携を進め、新たなアライアンス創出等によって、インターネットサービス利用者の皆様にとって、益々便利な社会の実現に貢献したいと考えています。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



行事一覧

1月

- 11日(水) 第60回クラウド部会
- 11日(水) 第89回女性部会(勉強会)
- 17日(火) 第157回行政法律部会
- 17日(火) 第3回クラウドカンファレンス実行委員会
- 18日(水) 第154回地域ISP部会
- 19日(木) 第115回運営委員会
- 19日(木) 2017年賀詞交歓会
- 20日(金) 第6回ネットワークの中立性ワーキンググループ
- 25日(水) 第112回インターネットユーザー部会
- 30日(月) 次世代Wi-Fi(Next generation Hotspot)セミナー
(at.ハロー貸会議室)

2月

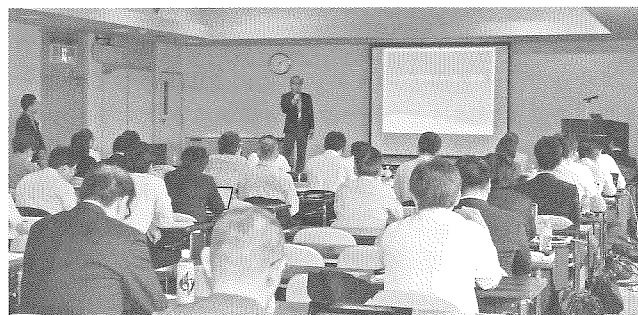
- 1日(水) 第61回クラウド部会
- 7日(火) 第158回行政法律部会
- 8日(水) 低炭素社会実行計画ワーキンググループ
- 14日(火) 第5回クラウドカンファレンス2017実行委員会
- 21日(火) 役員選考委員会
- 21日(火) 第116回運営委員会
- 22日(水) 第90回女性部会(とう道見学)
- 22日(水) 第155回地域ISP部会
- 23日(木) 第20回モバイル部会
- 24日(金) 第113回インターネットユーザー部会
- 28日(火) 第7回ネットワークの中立性ワーキンググループ

3月

- 1日(水) 第62回クラウド部会
- 7日(火) IGF-Japan2017(at.都市センターホテル)
- 8日(水) 第159回行政法律部会
- 21日(火) 役員選考委員会
- 21日(火) 2016年度第3回理事会
- 21日(火) 第6回クラウドカンファレンス2017実行委員会
- 22日(水) 第156回地域ISP部会
- 23日(木) 第91回女性部会
- 29日(水) 第114回インターネットユーザー部会
- 30日(木) 名称統一ワーキンググループ

4月

- 5日(水) 第63回クラウド部会
- 6日(木) 第160回行政法律部会
- 12日(水) 第91回女性部会
- 14日(金) 第21回モバイル部会
- 18日(火) 第117回運営委員会
- 20日(木)~21日(金)
第47回ISP&クラウド事業者の集いin熊本
- 25日(火) NGN-WG
- 27日(木) 第115回インターネットユーザー部会



4/20~21 集い in 熊本

5月

- 9日(火) 第161回行政法律部会
- 10日(水) 第64回クラウド部会
- 11日(木) NGN-WG
- 15日(月) 名称統一ワーキンググループ
- 16日(火) 2017年度第1回理事会
- 16日(火) クラウドカンファレンス2017実行委員会
- 17日(水) 第157回地域ISP部会
- 22日(月) 第92回女性部会(NTTセキュリティオペレーションセンター見学とホワイトハッカーと語る夕べ)
- 25日(木) 第22回モバイル部会
- 30日(火) 第116回インターネットユーザー部会

役員一覧

会長

渡辺 武経 株式会社ディー・エヌ・エー

副会長

菊池 正郎 ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社
大井 貴 NTTコミュニケーションズ株式会社
西山 裕之 GMOインターネット株式会社
立石 聡明 有限会社マンダラネット

専務理事

立石 聡明 有限会社マンダラネット

常任理事

秋山 卓司 クロストラスト株式会社
上野 貴也 ニフティ株式会社
鎌倉 忍 ディーシーエヌ株式会社
古関 義幸 ビッグロブ株式会社
晋山 孝善 ジェットインターネット株式会社
関野 浩也 群馬インターネット株式会社
高橋 佑至 株式会社ネットフォレスト
竹綱 洋記 ソフトバンク株式会社
永田 勝美 株式会社NTTぷらら
中桐 功一郎 KDDI株式会社

理事

家本 賢太郎 株式会社クララオンライン
石田 卓也 株式会社イプリオ
高橋 美博 株式会社グッドコミュニケーションズ
田中 邦裕 さくらインターネット株式会社
中野 雄一 株式会社エヌディエス
野口 尚志 EditNet株式会社
横田 洋人 株式会社アットアイ
横山 正 株式会社インターリンク

監事

新堀 龍明 株式会社サンライズシステムズ
竹内 常夫 虹ネット株式会社

(掲：2016年度JAIPA定時総会時のものです)

会員一覧

■正会員 [150団体]

株式会社アイエフネット	射水ケーブルネットワーク株式会社	オーシャンブロードバンド株式会社
株式会社IMS	株式会社インターネット尾張	株式会社大塚商会
株式会社アイキューブ・マーケティング	インターネット・フューチャー株式会社	大槻電気通信株式会社
株式会社IC-NET	インターネットプロ東海株式会社	株式会社オキット
株式会社IDCフロンティア	株式会社インターリンク	カゴヤ・ジャパン株式会社
AXLBIT株式会社	WIXI株式会社	関越ネットワークシステム株式会社
アクロニス・ジャパン株式会社	株式会社STNet	特定非営利活動法人きたうら花ねっと
株式会社朝日ネット	株式会社エディオン	株式会社クオリティア
株式会社アットアイ	EditNet株式会社	株式会社クララオンライン
有限会社あまくさ藍ネット	株式会社エヌディエス	株式会社グローバルネットコア
アミック株式会社	NTTコミュニケーションズ株式会社	クロストラスト株式会社
株式会社有明ねっこむ	エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社	株式会社クロノス
アルテリア・ネットワークス株式会社	エヌ・ティ・ティ・スマートコネクト株式会社	群馬インターネット株式会社
株式会社イーネット	株式会社NTTドコモ	株式会社KDDIウェブコミュニケーションズ
イーブロードコミュニケーションズ株式会社	株式会社NTTPCコミュニケーションズ	株式会社ケー・アイ・ピー
イエスネット株式会社	株式会社NTTぷらら	株式会社ケーシーエス
イツ・コミュニケーションズ株式会社	エヌ・ティ・ティ・メディアサプライ株式会社	KDDI株式会社
株式会社イプリオ	株式会社エンボリック	株式会社コアラ

会員一覧

株式会社高知システムズ
株式会社恒徳産業
コスモメディア株式会社
彩ネット株式会社
さくらインターネット株式会社
株式会社さくらケーシーエス
サンコー事務機株式会社
株式会社サンメディア
株式会社サンライズシステムズ
株式会社シーエスファーム
GMOインターネット株式会社
GMOクラウド株式会社
ジェットインターネット株式会社
株式会社Geolocation Technology
株式会社シグマライン
株式会社シナプス
株式会社ゼクシス
株式会社創風システム
ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社
ソピアフォンス株式会社
ソフトバンク株式会社
ZOROK株式会社
有限会社たけかわ企画
ダンボネット・システムズ株式会社
株式会社つなぐネットコミュニケーションズ
株式会社ディー・エヌ・エー
ディーシーエヌ株式会社
株式会社TCP
株式会社DMM.comラボ
有限会社T-CNET
株式会社電算
103R株式会社
電通工業株式会社
株式会社TOKAIコミュニケーションズ
トナミ運輸株式会社
株式会社トリトン
有限会社ナインレイヤーズ
那賀町ケーブルテレビ
株式会社長野県協同電算
那須インフォネット株式会社
株式会社NAX
株式会社新潟通信サービス
株式会社西新宿ドットネット
虹ネット株式会社
ニフティ株式会社
日本・アルカディア・ネットワーク株式会社

日本情報システム株式会社
日本ネットワークイネイブラー株式会社
日本マイクロソフト株式会社
株式会社日本レジストリサービス
株式会社ニューメディア徳島
ネクストウェブ株式会社
株式会社ネクストジェン
株式会社ねこじゃらし
株式会社ネスク
株式会社ネットアイアールディー
株式会社ネットフォレスト
株式会社ハイネット
株式会社Hi-Bit
パラレルス株式会社
株式会社ハローコミュニケーションズ
BBIX株式会社
株式会社光システム設計
BizMobile株式会社
株式会社日立システムズ
ビッグロブ株式会社
株式会社ヒューメリア
株式会社ファミリーネット・ジャパン
株式会社フィックスポイント
株式会社フォーサイトウェーブ
株式会社富士通システムズアプリケーション&サポート
株式会社フューチャースピリッツ
株式会社フューチャーネットワークス
フリービット株式会社
ブロックスシステムデザイン株式会社
有限会社プロペル
天糸瓜ネット合同会社
株式会社北斗システムジャパン
HOYAサービス株式会社
株式会社ホワイトサポート
株式会社マイメディア
松本商工会議所
有限会社マンダラネット
三井物産セキュアディレクション株式会社
ミテネインターネット株式会社
株式会社ミライコミュニケーションネットワーク
株式会社武蔵野
メディアウェイブシステムズ株式会社
株式会社メディアブリッジ 東京支店
ユニアデックス株式会社
ライド株式会社
楽天コミュニケーションズ株式会社

リコージャパン株式会社
株式会社両毛インターネットデータセンター
Rebyc株式会社
ワークアップ株式会社

■賛助会員 [5団体]

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター
サイバーソリューションズ株式会社
特定非営利活動法人日本テレマーケティング保護協会
日本ネットワークセキュリティ協会
一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム

(団体名五十音順) 2017年5月31日現在

痛恨のミスである。

Exp発刊にあたり、いちばん人気の「People People」執筆依頼をするのを忘れてしまった。

人生も折り返し地点を通過すると、物忘れが激しくなる。3歩歩いて「あれ？何だっけ？」と用を忘れる始末。でも思った。いろいろと物忘れが激しくなるが、銀行の暗証番号だけは忘れないのね。

話は戻り、そうそう、執筆依頼をするのを忘れてしまっていた。巻頭挨拶をはじめ執筆依頼を進めている中で、快諾をいただけなかったところもあり次に次にとお願いをし、全コーナーの執筆依頼終了！と浮かれていた入稿1週間前になり気づいてしまった。どうやらPeopleの執筆依頼だけ抜けていたのだ。まったく痛恨のミスである。

気づいた時には入稿1週間も切っていて、えー今から依頼をするの、無理… え無理… 無理よね…

ということで、今号は「People People」をお休みして、編集後記拡大版という名の、ただの編集後記3本立ての回顧録をお送りいたします。ただ、Tさんが書き始めたのはVol. 10～なのですが、Vol. 10、11はちょっとした挨拶文みたいなものなので割愛させていただきます。

どうも最近ではカルシウム不足でいけねえ、気分がムキーっとなるせいか、毎日厄日な気分である。

ちょっと寄り道をしたある日のこと、渋谷駅でJRのMさんと別れ、京王のTさんはほろ良（酔）い気分帰宅の途につこうとしたのである。改札を通り過ぎたあたりでジリジリと鳴り始めたが少しの余裕で乗れないことはない。1本逃すと次の乗換えで家に着く時間も変わるし、よし、飛び込み乗車の人に押されればなんとか、とドア付近の混雑にへばりつければ、計算通りオヤジがやってきた。ところが、押されるどころか、そのオヤジは自分の体を中に押し込め、Tさんを突き飛ばす形でまんまと乗車に成功し、なんと、突き飛ばされたTさんは「あーれー」と電車とホームの間に落ちたのである。血相を変えたのはTさんでもオヤジでもなく、次の電車を待っていた女性2名、咄嗟にTさんの腕を掴み救い上げてくれたのだ。わずか数秒の出来事にいまだに危機感がないTさんではありますが、しっかりと「あのオヤジに突き飛ばされたんですよ、びっくりしましたわっ」と、ジリジリと鳴り響くホームの上で捨て台詞を吐くことは忘れない。捨ててはいないけど、台詞を捨ててくれないオヤジはそのまま乗り去って行きました。ムキーッ！

義弟の職場で携帯電話のキャンペーン中。そろそろ機変を考えていたTさんではあるが、この夏は財布のヒモが緩み過ぎていたので、Mさんに「ちょっと見送ることにしたんだー」と報告した数分後、我が愛用機は水没してしまいました。ムキーッ！！

今日現在、まだまだ厄災は続くけれど、良いことも悪いこともプラマイゼロと思う私、災い転じて福となす！ととりあえず、宝くじ売り場でも徘徊してみようかな？

「Vol. 12 September 2005」より

私の財布はいつもギリギリである。出かける予定などあれば、前日もしくは当日に銀行に寄らなければならない。そーいえば、嫁にいった姉ちゃんも出掛ける度に「銀行どこ？」と聞く。家系？ 我が家の財布は薄く持ちやすすが信条なのであろう。

銀行の手数料に、頼みもしないのにもれなくついてくる消費税がまだ3%の頃。当時は17:30終業の会社に在職中であつた。通勤の駅から徒歩10分程度の道のりなのだが、私が預けている銀行の看板は、駅の反対側に位置していた。制服着用であった為、スタートが悪いと18:00までにそこに行き着くことも困難を極める場所である。

どうしても銀行に寄らなければならない程にすっからかんだったある日のこと。スタートに遅れ、18:00まで後5分というところで力尽き、それではと道すがらの他行に寄ったのである。行っても行かなくても手数料が取られてしまうなら、わざわざ遠回りしてまでと思ったのが運のツキ！ 私の人差し指がまず「1」を押す。本来ならここで「7」とか「9」とか、あらかじめ千円札を用意するのが私流の引き落とし美学なのだ。しかし、季節は真冬。スタートが遅れた原因とも言えるべき着ぐるみ状態の私の袖口は当然の如く手先が半分隠れるのが基本。それがいけなかった。「1」を押すべき次の数字に行き着くまでに、コートの袖口が「円」に触れてしまったのである。「え？」と思った時には、カシヤカシヤカシヤ、と乾いた音が聞こえ、コイン投入口がパカッと開いた。そう、「1円玉」とのご対面である。制限時間内とはいえ、他行の手数料はしっかりばきりと取られるのだ。（当時のATM（引き出し専用機）は、円で引き出せるようになっていたのだ。）

私の通帳に決して消えない傷跡が残された。どこの世界に「1円」を下ろすのに「103円」の手数料を払う人がいるのだ。ATMは人の心が読めない機械であることを改めて気づいてしまった真冬の出来事。

皆様、銀行でお金を下ろす時は、袖口に御用心！

「Vol. 13 January 2006」より

Tさんの実家は農家である。昔は庭に養鶏がいたが、今は庭に人間がいる。農家から不動産？へブームに乗った転身であつた。養鶏は辞めたものの、不動産ではすることがないと考えたのか、父は畑で野菜を売ることになった。採れたての野菜を並べては道行く人が木箱に100円を入れて持っていくのだ。畑が徒歩圏内にないせいで、我が家では今どんな野菜が採れるのか、社会生活のTさんにはわかる由もない。

Tさんの実家は昔養鶏場であつた。庭に養鶏場があるので、仕事場が家の裏にくっついていて、母の教育方針であつたのだろう、我が家は小学生の頃より台所に立つのが当たり前であつた。Tさんは四姉妹の次女のせいか台所に立つスタートは長女より遅れたが、姉が中学のクラブで遅くなり、電車通勤する高校に通いだすにつれ、台所に立つ回数が増えていった。中学の頃は仕事をしている母の背中に「今日は何やるの～」「どーやって作るの～」と聞いては台所と仕事場を往復し、高校生にもなると冷蔵庫を一瞥するだけで夕食の献立を考えるまでに成長した。そんなこんなで料理が得意と思われがちだが、中学で作るレベルはたかが知れているし、冷蔵庫の中にあるものといえは小学生の頃から変り映えていないのだ。結局は、Tさんの料理は中学レベルから進んでいないのであつた。

昨年5月5日の我が家のメニューは、お味噌汁がわりにラーメン。なので、豚肉ともやしの野菜炒めキャベツなし、に、マカロニサラダ他。

そして、父がラーメンの上に野菜炒めをのけて食べ初めて数秒した頃、「この葉っぱは何だ？」「何、って、ニラじゃん。だって、畑から持ってきたんでしょ？」「ニラなんて持ってきてないぞ」「…へ？ だって、そこ（まな板の上）に置いてあったよ」「ばかもん！ あれは“しょうぶ”だ！」

5月5日は端午の節句。我が家のお風呂は「菖蒲湯」でした。

あれから1年が経ち、父も私の料理の腕前に恐れをなしたのか、今年は菖蒲が台所の隅に追いやられてしまった。おかげで「菖蒲湯」に入り損ねちゃったじゃん！

「Vol. 14 May 2006」より

結構Tさん文才あつたなあ、そういえばそんなことあつたなあ、懐かしい思い出。くすっと笑って頂けたら幸いです。

さて！次号は必ずやPeople Peopleの執筆依頼を忘れずに！（T）

JAIPA Express Vol.45

2017年6月15日 初版第1刷発行

発行所 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会 (JAIPA)
〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町3-24 カコー桜丘ビル6F
TEL:03-5456-2380 FAX:03-5456-2381
URL:<http://www.jaipa.or.jp/> E-mail:info@jaipa.or.jp

印刷 フジサービス株式会社
〒105-0014 東京都港区芝2-20-8



■本書の内容に関するご質問は、E-mailにてお問合せください。
■本書掲載記事の無断掲載・放送は堅くお断りいたします。
■乱丁、落丁本がございましたらお取り替えいたします。

© 2017 Japan Internet Providers Association